

株式会社タムラ製作所

2010年3月期 第2四半期決算概要

補足説明資料

2009年11月11日



1. 2010年3月期第2四半期決算概要
2. 2010年3月期 通期業績予想

1. 2010年3月期第2四半期決算概要

ハイライト(要約損益計算書)

市場環境低迷により売上は大幅減少
構造改革による効果も出はじめるが改革半ばで
昨年下半年期よりは赤字幅圧縮するも赤字継続

09上 期中平均実績為替レート: \$1= 95円 44銭
09上 期中平均社内為替レート: \$1= 96円 17銭
09上 期末日実績為替レート : \$1= 90円 21銭

【百万円】

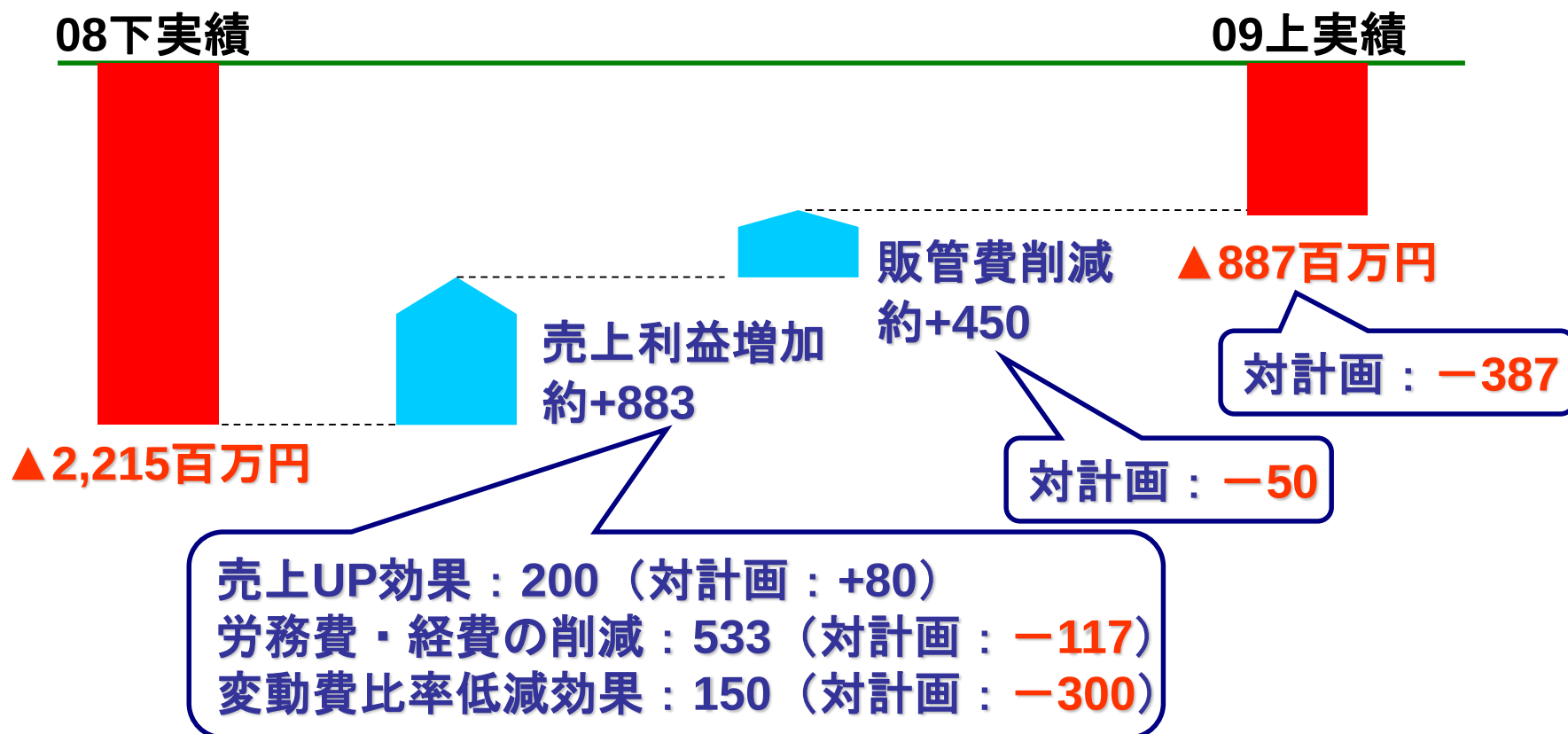
	08上	08下	09上	前年同期 増減
売上高	47,134	30,373	31,362	△ 15,772
営業利益	905	△ 2,215	△ 887	△ 1,792
営業外損益	△ 10	△ 1,399	△ 283	△ 273
経常利益	895	△ 3,614	△ 1,170	△ 2,065
特別損益	△ 2,046	△ 1,269	△ 339	1,707
税引前利益	△ 1,151	△ 4,883	△ 1,508	△ 357
純利益	△ 1,525	△ 5,981	△ 1,424	101

◆営業利益

売上高の減少に伴い、体質強化・効率化を目指した構造改革推進中で改善途上。
86下より赤字幅は縮小するも赤字継続。

◆特別損失

オプシード津南
(株式会社光波の関係会社)
の解散関係費用として
2億9千5百万円を計上
内訳: 減損損失・棚卸評価損・
特別退職金等



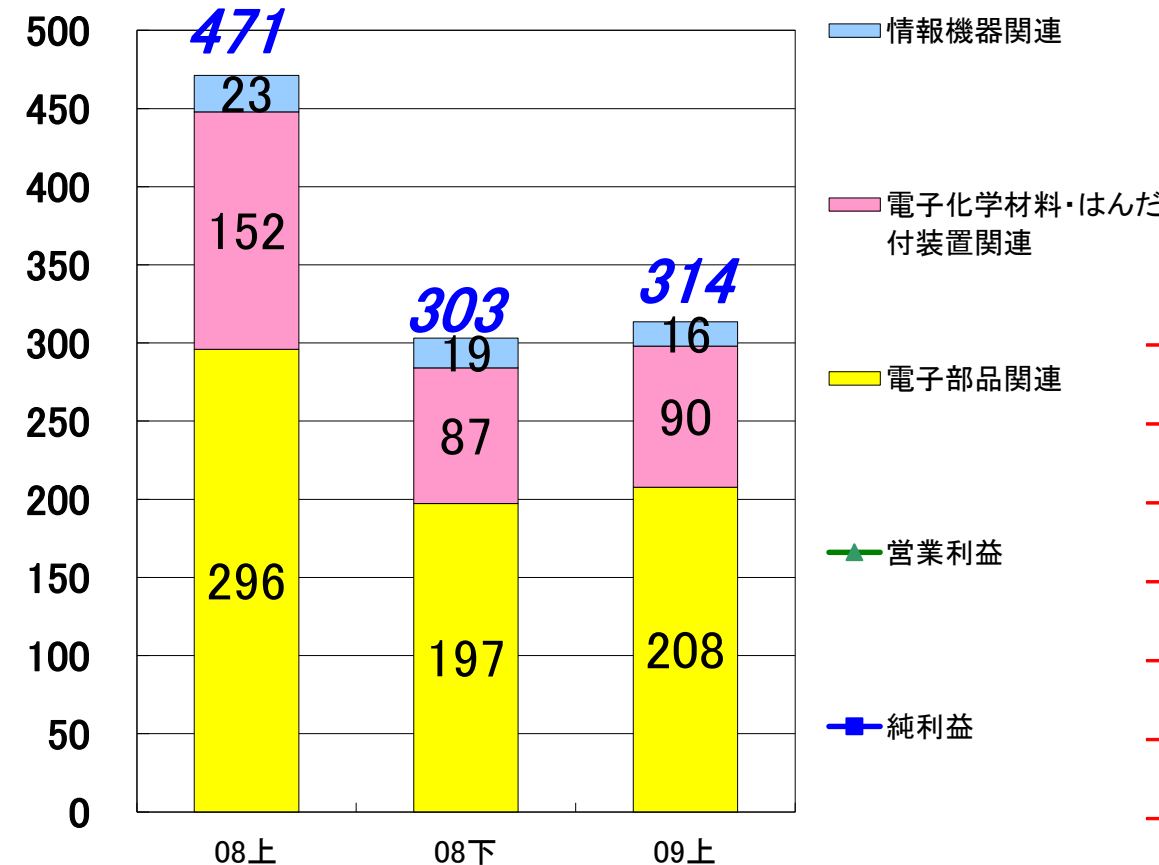
【計画・実績差分要因】

- ・原材料高騰などにより変動費比率が計画よりUP
- ・労務費の抑制が計画未達（残業抑制、人員削減、効率化など）

設備投資抑制・減少の影響などで情報機器関連は厳しい状況が続く
 電子化学材料・電子部品関連は緩やかながらも回復傾向
 構造改革も進展し、赤字幅は減少するが電子部品は厳しい状況が続く

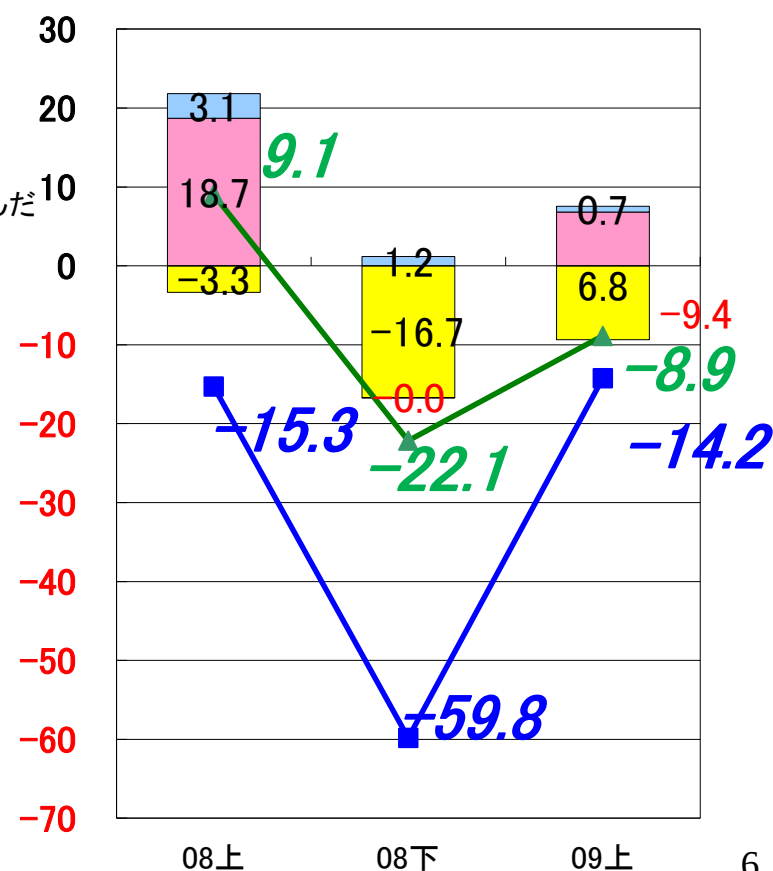
売上高

【億円】



営業利益

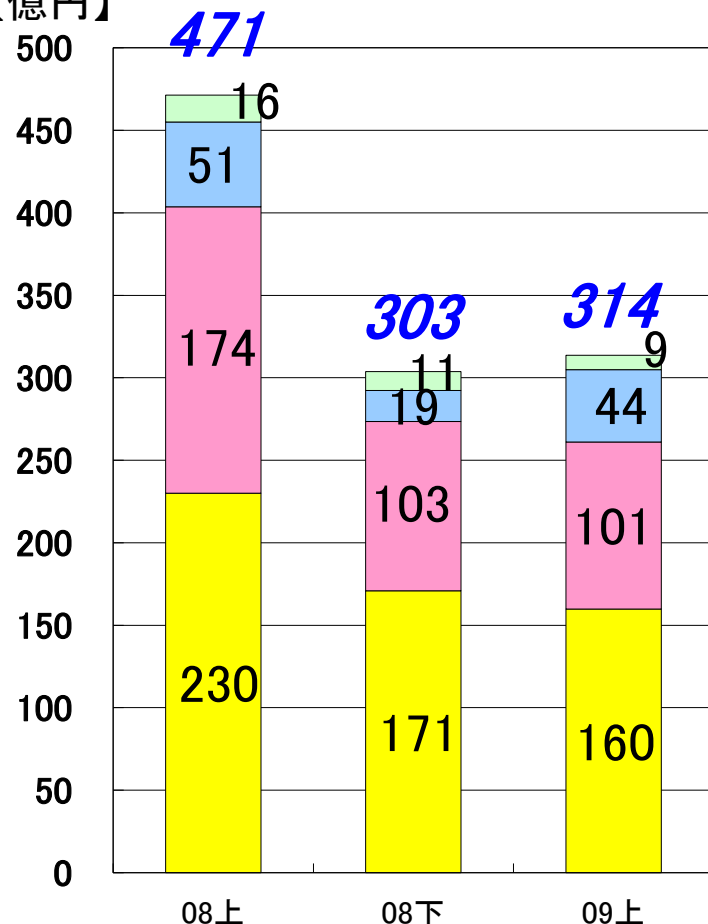
【億円】



設備投資の抑制・減少を背景に日本を含め、全般的に低調・横ばい
ヨーロッパは電子部品を中心に1Qが好調で他エリアを牽引
売上は横ばい・低位だが日本・アジアは収益改善が進展

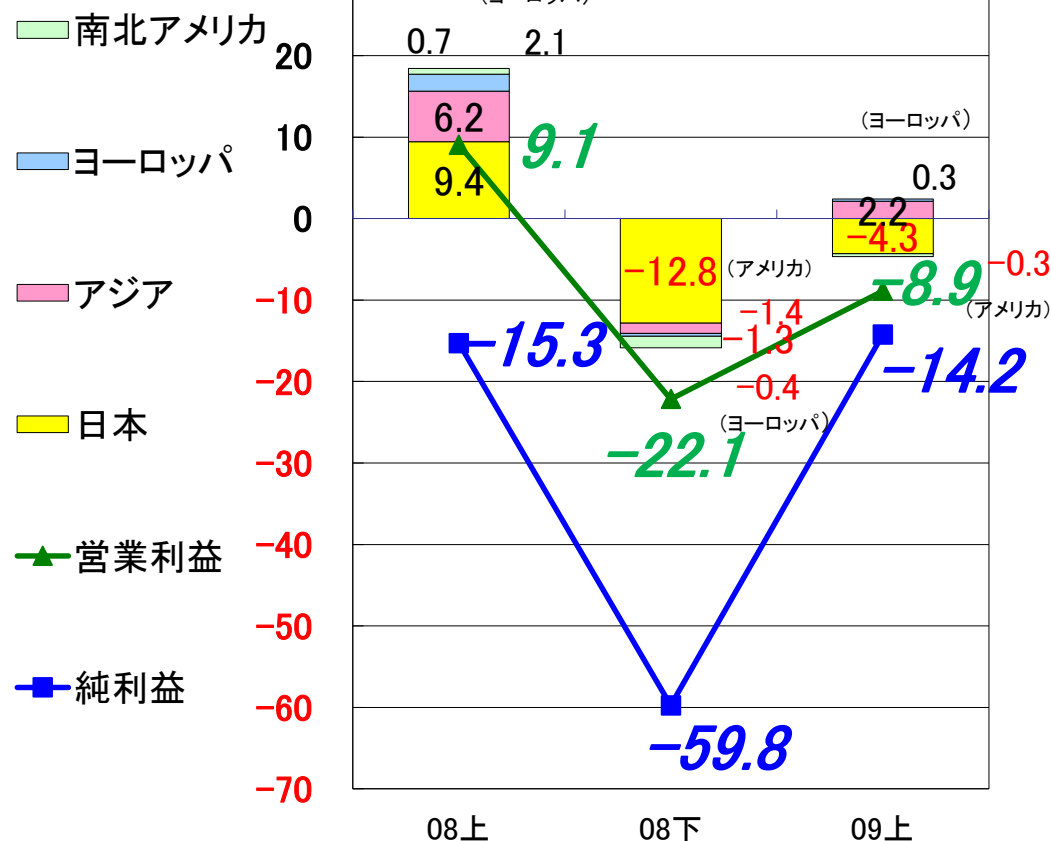
売上高

【億円】



営業利益

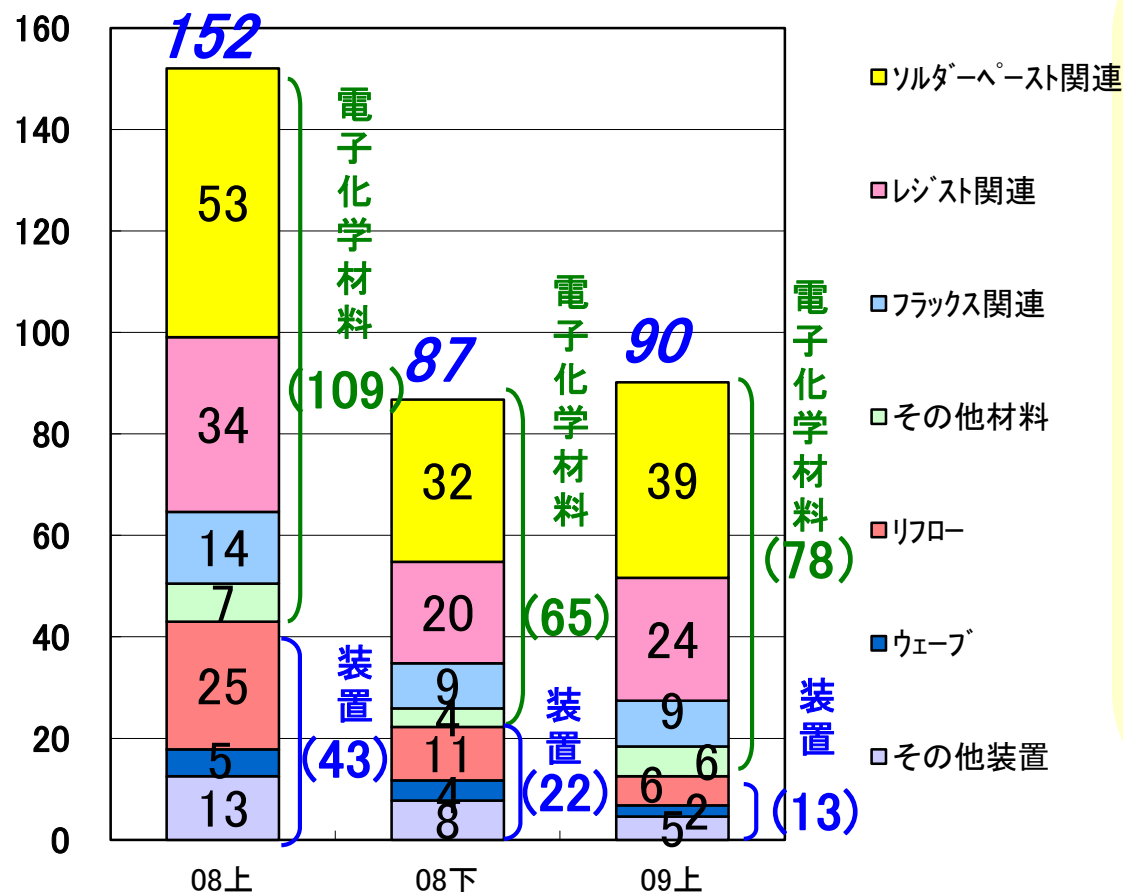
【億円】



設備投資の抑制・減少、競争の激化と市場環境は一段と厳しさも増し、
はんだ付装置関連は引き続き低迷、大幅な減収
電子化学材料は生産量の増加に伴い、緩やかに回復基調

製品別 売上高

【億円】



◆半導体向け材料堅調

◆車載向け solder パーストの鉛フリー化進む

◆LED向け材料注目集める

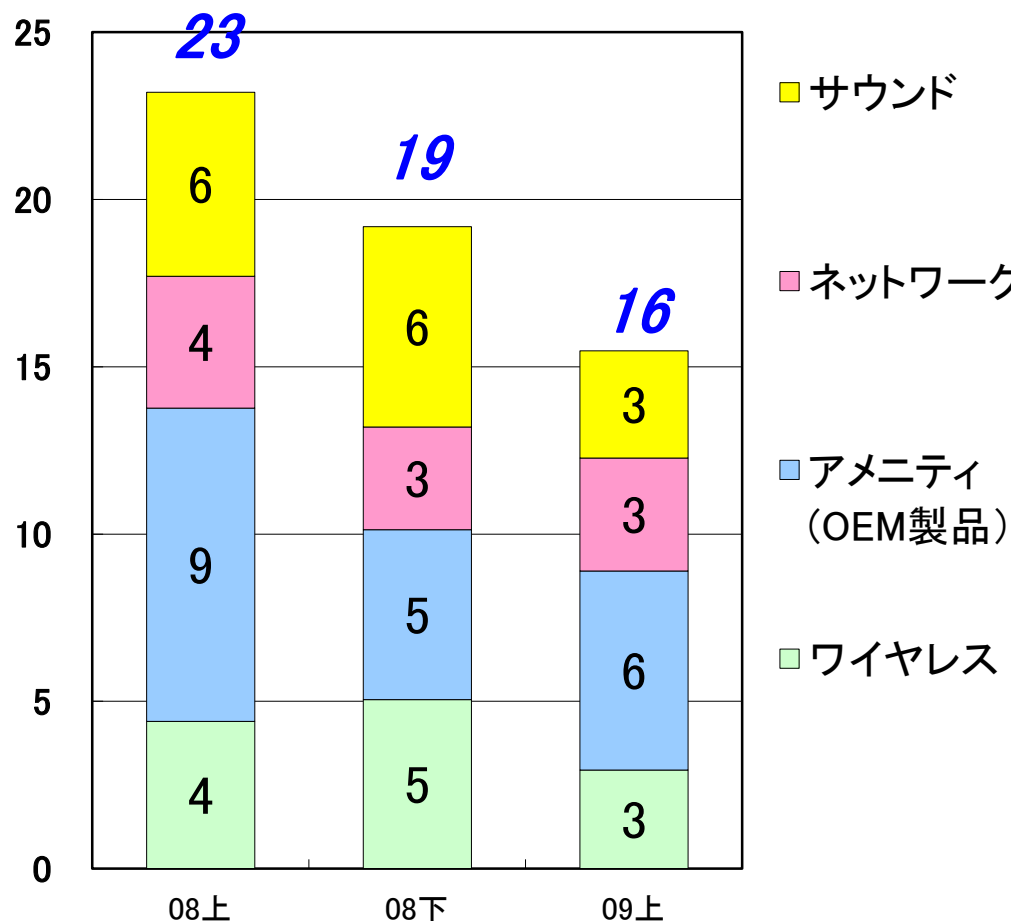


設備投資の抑制・減少の中、設備機器が中心である本事業は
全般的に厳しい状況が継続

特に放送機器関連は需要減が大きく、大幅な減収

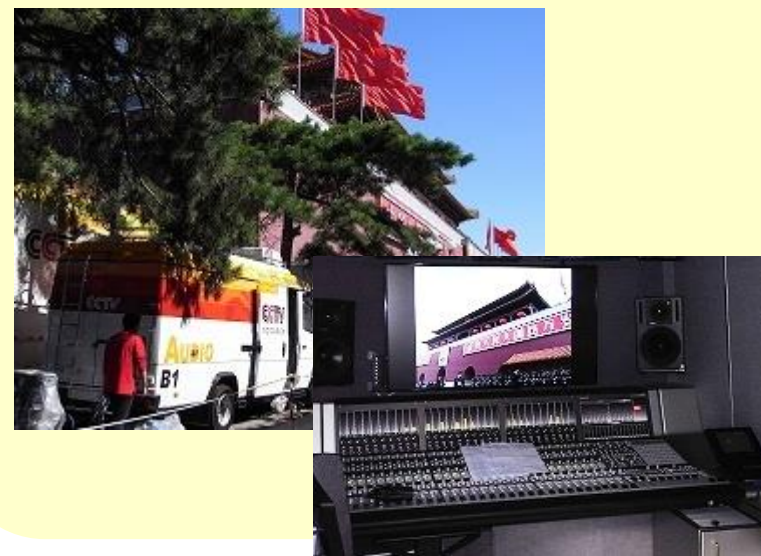
市場別 売上高

【億円】



◆放送機器の海外展開

中国最大の放送局「中央電視台(CCTV)」
中国国慶節の実況中継で音声調整卓
(AMQシリーズ)やステージBOXが
使用されました。



ハイライト(要約貸借対照表)

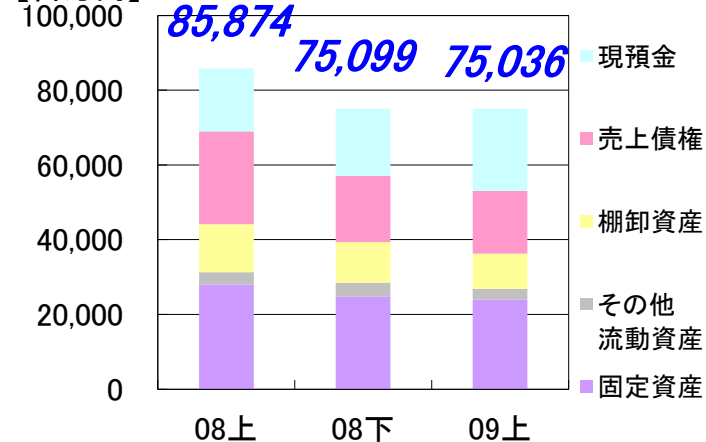
本社単独で35億円を長期借入実行(4月)
 売掛・棚卸及び買掛は売上減少により大幅に減少
 →今後の資金は確保

	08上	08下	09上	対前期
流動資産	57,927	50,349	50,966	617
(現預金)	16,852	18,036	21,974	3,938
(売上債権)	24,863	17,730	16,807	△ 923
(棚卸資産)	12,817	10,869	9,439	△ 1,430
(その他流動資産)	3,395	3,714	2,746	△ 968
固定資産	27,946	24,750	24,070	△ 680
(有形固定資産)	20,124	18,740	18,134	△ 606
(無形固定資産)	1,864	1,424	1,327	△ 97
(投資、その他)	5,957	4,585	4,607	22
資産合計	85,874	75,099	75,036	△ 63

流動負債	29,328	21,097	18,714	△ 2,383
(仕入債務)	14,166	11,622	9,452	△ 2,170
固定負債	15,823	21,837	25,352	3,515
(有利子負債※)	20,409	22,781	26,998	4,217
負債計	45,152	42,934	44,067	1,133
純資産合計	40,722	32,164	30,969	△ 1,195
負債・純資産合計	85,874	75,099	75,036	△ 63

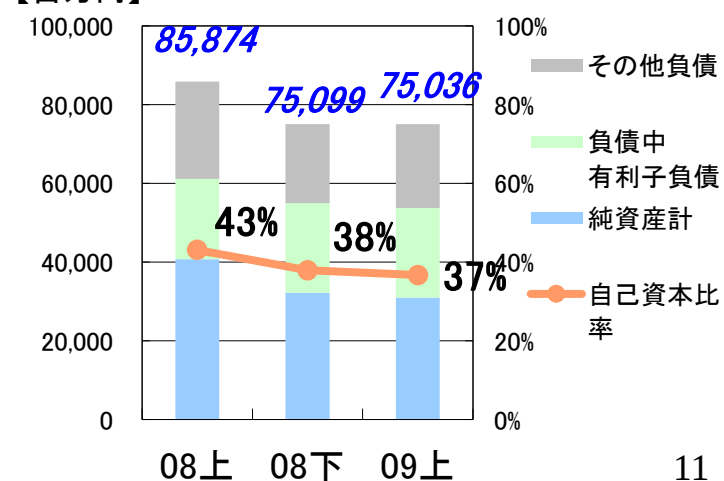
【百万円】

【百万円】



負債・純資産

【百万円】



営業CFは黒字確保 +投資CFは設備投資を大幅抑制 =フリーCFは大幅改善
財務CFでは今後の資金を前倒し確保

【百万円】

	08上	09上	増減
営業活動による キャッシュフロー	789	528	△ 261
投資活動による キャッシュフロー	△ 3,446	△ 485	2,961
フリーキャッシュフロー	△ 2,657	43	2,700
財務活動による キャッシュフロー	1,601	3,580	1,979
キャッシュの増減	△ 1,309	3,702	5,011
キャッシュの残高	16,474	21,609	5,135

2. 2010年3月期 通期業績予想

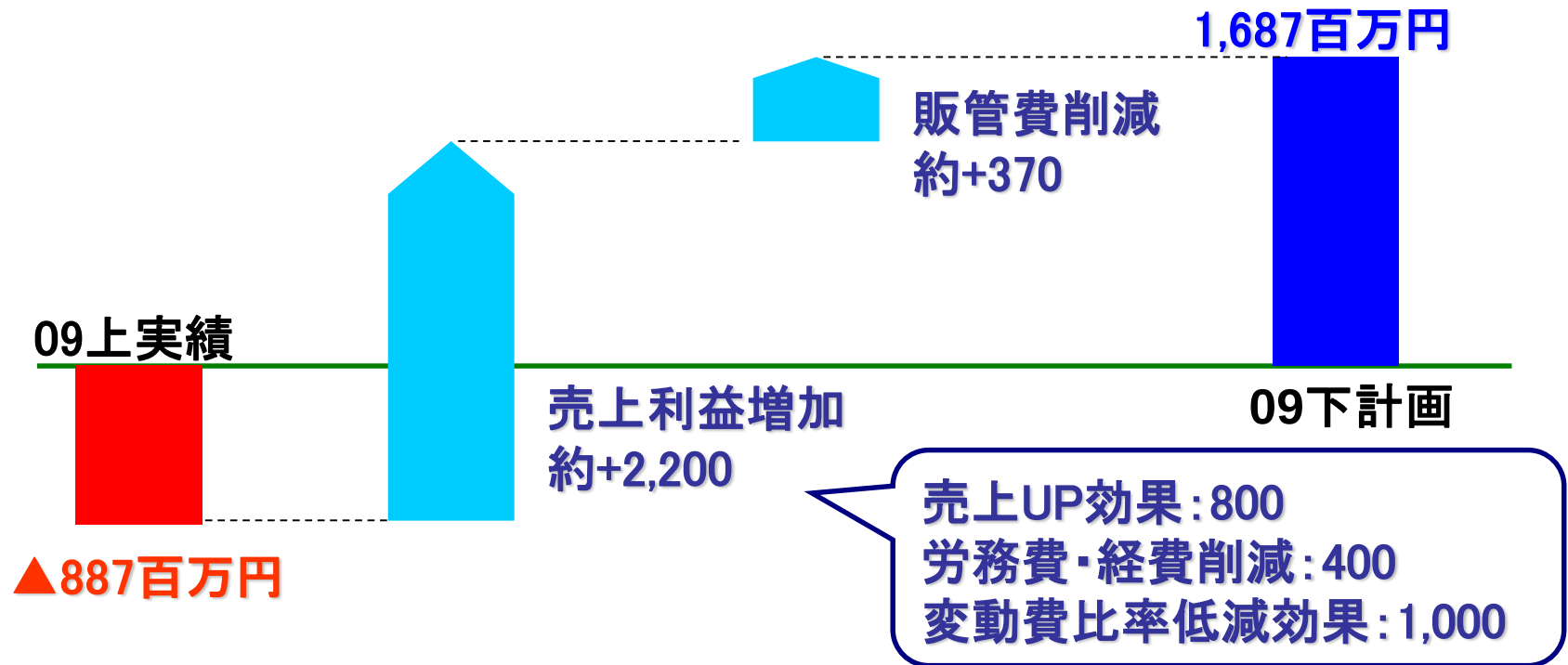
不透明な市場環境の中、引き続き、構造改革を中心に グループ経営体質の強化を推進、下期での巻き返しを図る

損益予想

09下期 計画為替レート \$ 1 = 90円

【百万円】

	08通期 実績	09上期 実績	09下期 計画	09通期 修正予想	対前年 増減	参考: 09通期 期首予想
売上高	77,507	31,362	34,638	66,000	△ 11,507	67,000
営業利益	△ 1,309	△ 887	1,687	800	2,109	1,000
経常利益	△ 2,719	△ 1,170	1,470	300	3,019	500
当期純利益	△ 7,506	△ 1,424	1,024	△ 400	7,106	100



- ・上期中に実施した拠点統廃合効果が全面発揮
- ・経費の削減(無駄の排除・投資抑制)
- ・効率化による労務費削減(人員の適正化・残業抑制・生産性向上)
- ・高付加価値製品の拡大(プロダクトmix改善)による変動費の低減
 - ①電子化学材料の拡大②車載市場製品の拡大③LED製品拡大
 - ④産業機械(特にエネルギー関連)関連の拡大⑤新製品投入
- ・材料CD+原材料高騰リスクの低減

＜平成21年10月13日発表＞

電子化学材料・はんだ付関連事業の主要連結子会社である
タムラ化研株式会社と株式会社タムラエフエーシステムを
タムラ製作所に吸収合併（平成22年4月1日予定）

分散型経営から統合型経営へのシフト
Ⅱ

グループ経営強化

目指すはSimple Management

経営資源の再配分

組織の命令系統の明確化

資源の有効活用

内部統制力の強化

固定費の削減

商流の簡素化

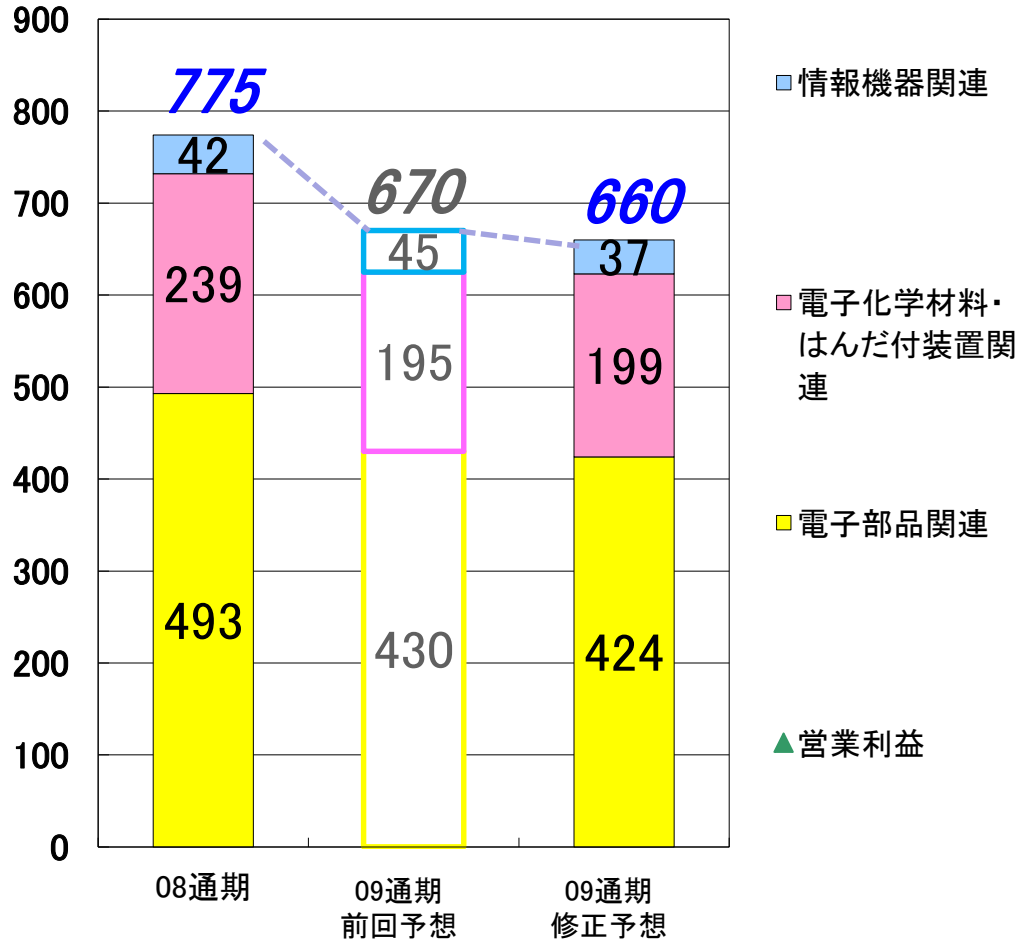
業務の効率化・コスト削減

資金管理の強化

不透明な市場環境の中、回復へは向かうも非常に緩やかと想定
通期予想を見直し

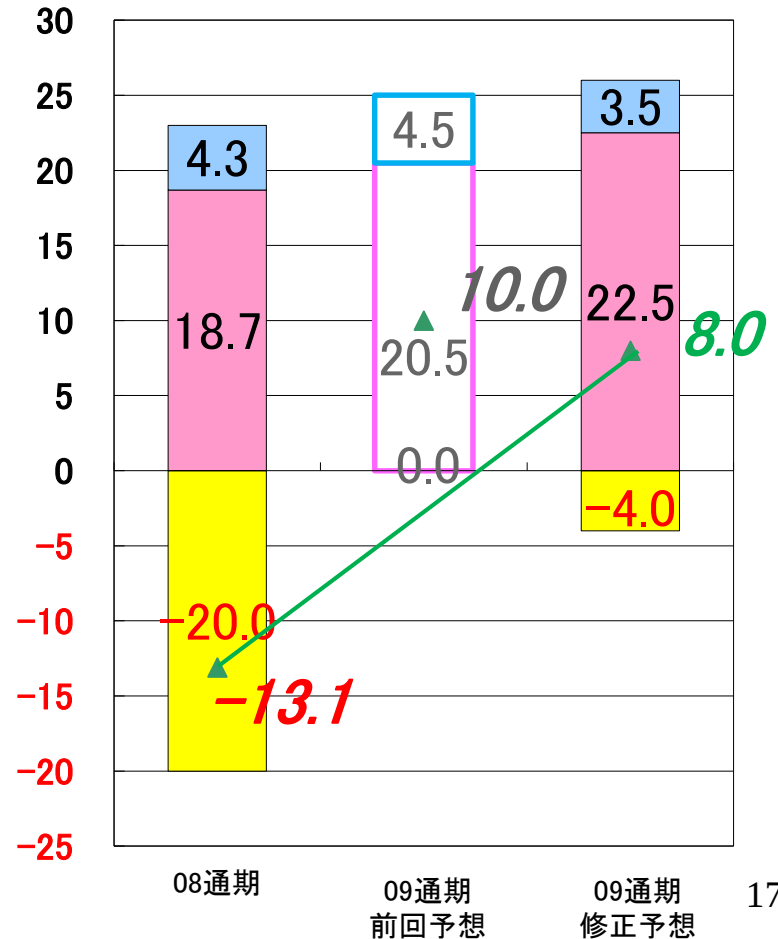
売上高

【億円】

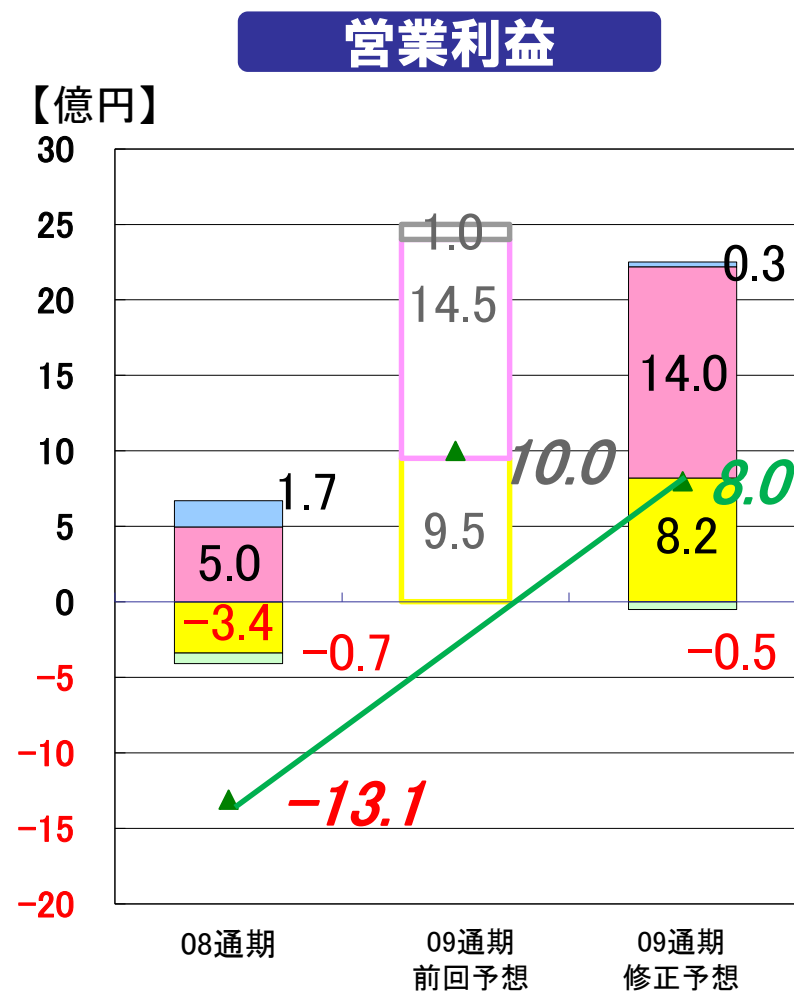
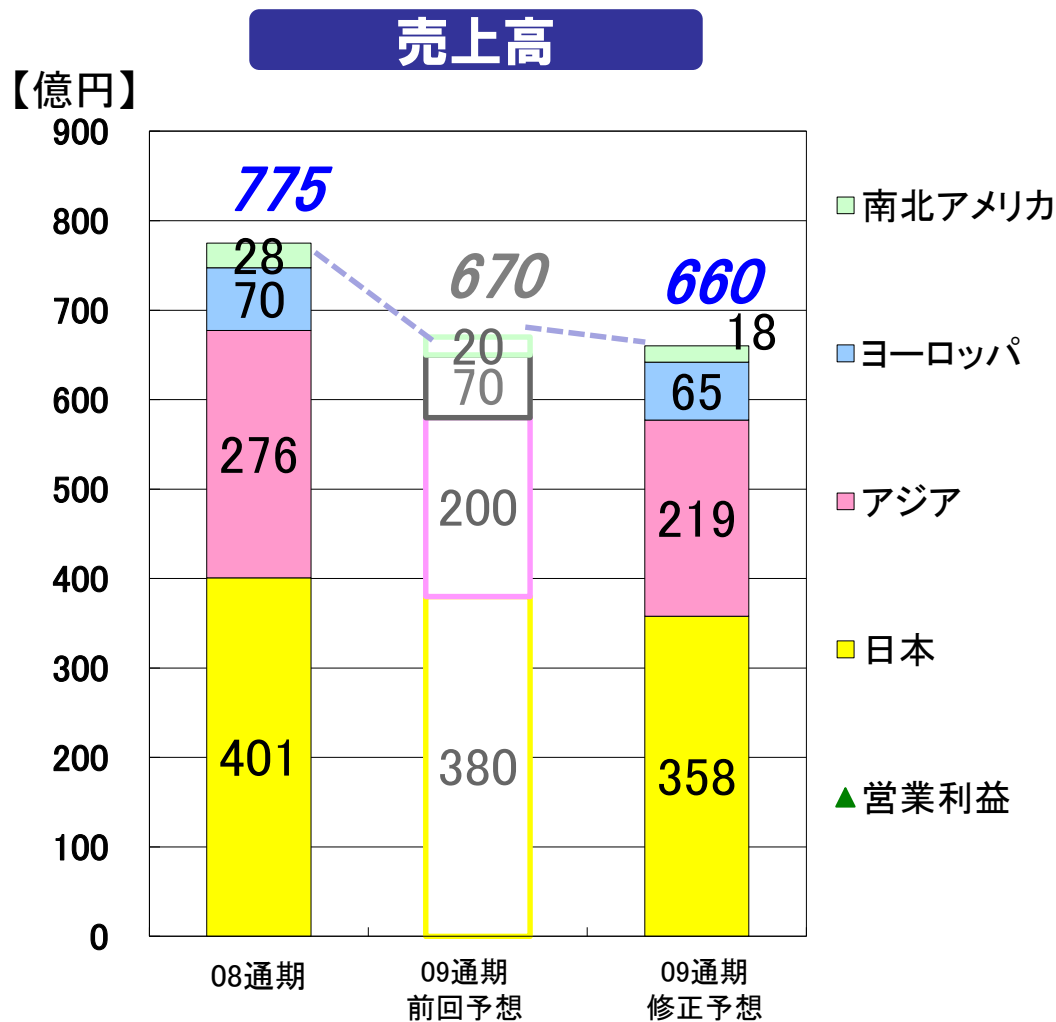


営業利益

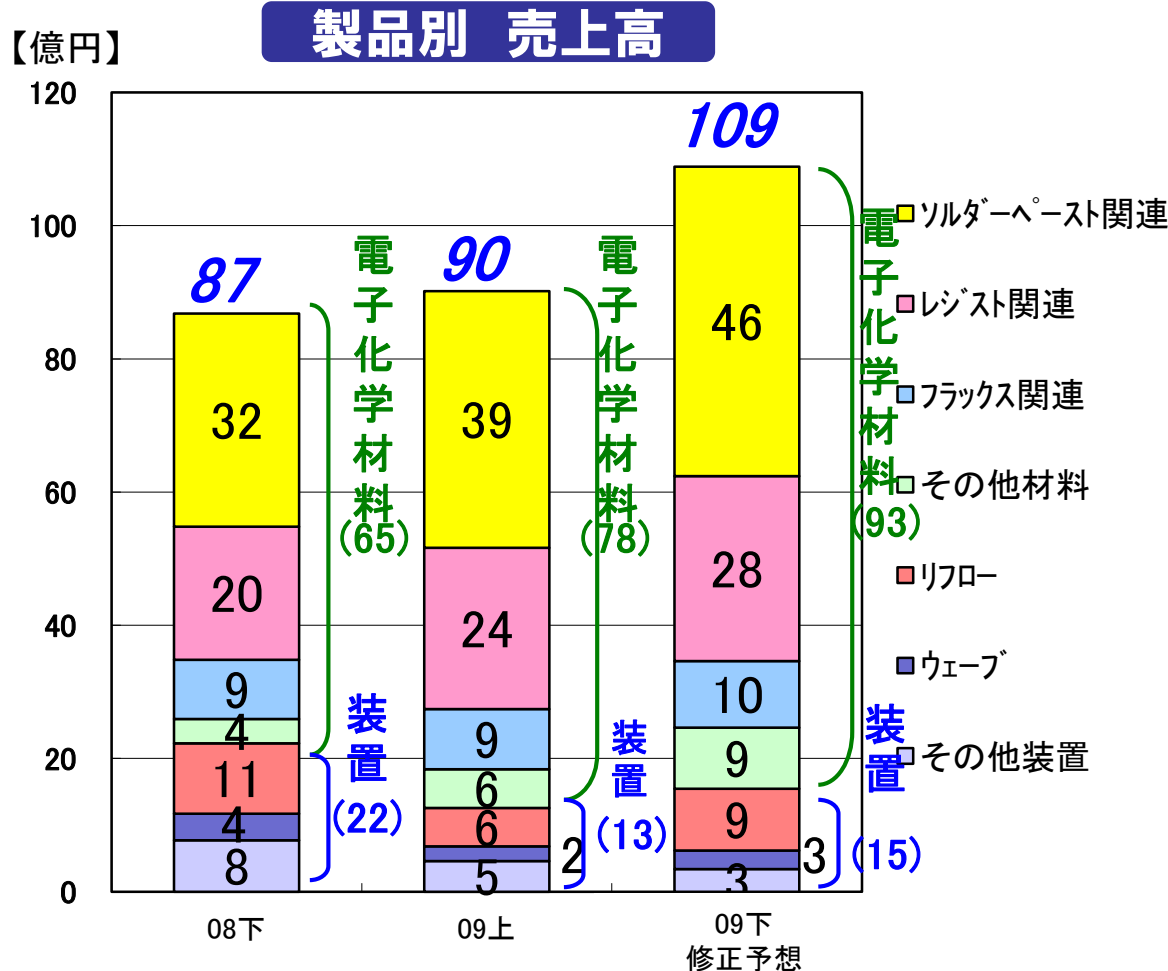
【億円】



アジアは中国を中心に回復傾向と予想するも欧米は引き続き、
 厳しい市場環境の中、低迷が予想され、グローバルの経営強化を推進

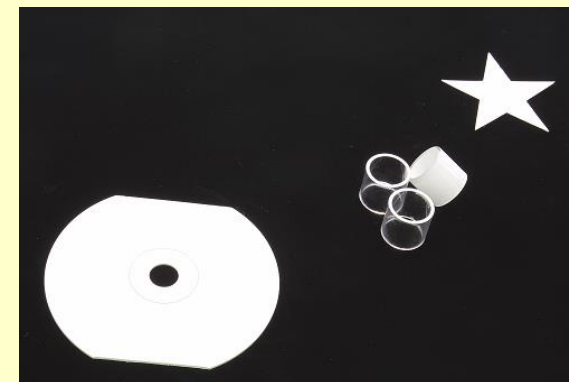


はんだ付装置：環境対応ダクトレスリフロー装置で潜在需要の掘り起こし 電子化学材料：車載・LED関連などの新規市場へ積極拡販



◆LED用白色反射材 ラインナップを拡充

需要が高まる
LED向け用途の多様化に
応えるべくラインナップを強化



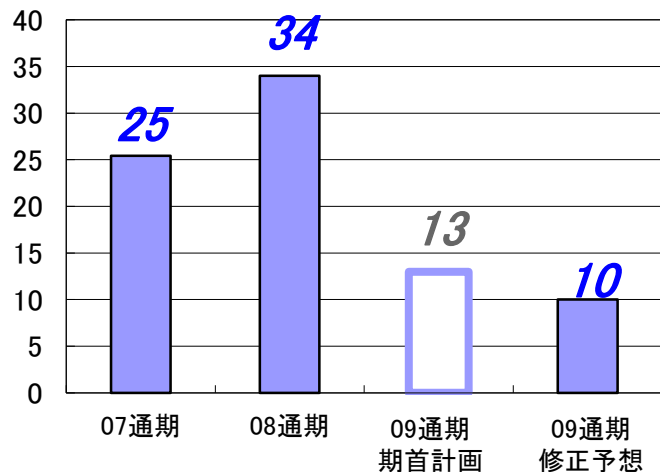
(新製品)

RPW 低温塗膜形成型反射材

設備投資

必要最小限の投資にとどめ、大幅に減少

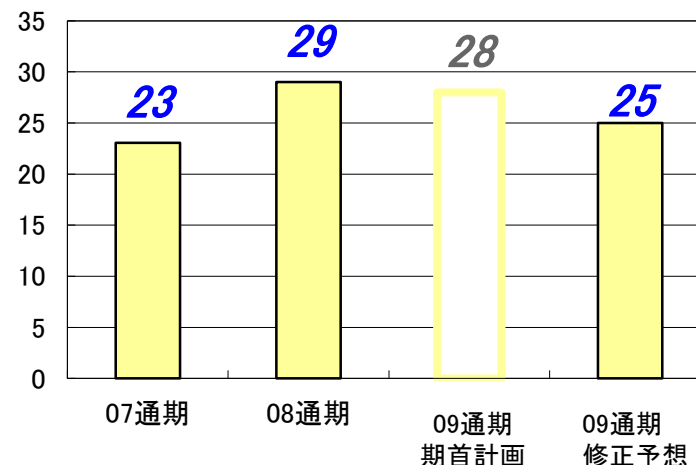
【億円】



減価償却費

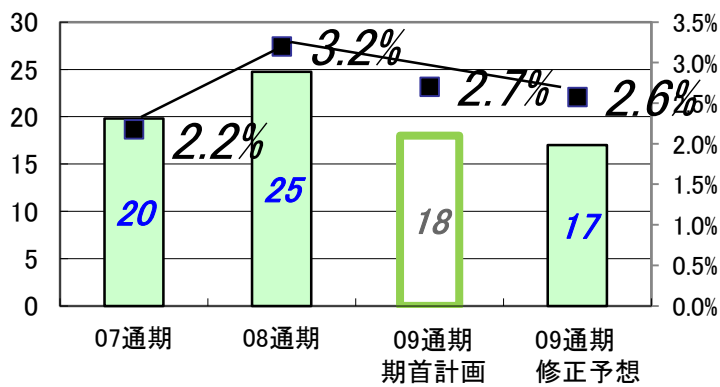
設備投資額の減に伴い、償却予想も減少

【億円】



研究開発関連費用

【億円】 □ 試験研究開発費 ■ 対売上高比率



- ・戦略事業(セラミック・車載・半導体向け等)を中心に開発推進体制を強化
- ・LED関連事業については、タムラー光波での連携開発体制を築き、高輝度LED製品開発のスピードアップ
- ・はんだ材料をはじめ、各カテゴリにおける素材開発の強化を推進

弊社からのお願い

業績等の計画につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、実際の業績等は、市場の変化などにより計画と異なる結果になる可能性もあることをご承知おきください



The End